



卒業アルバムの挨拶の依頼が来ました。今年は以下のように書きました。

卒業生の皆さんに言葉を贈りたい。  
かっこいい言葉では無い。  
校長の魂の叫びだと思ってほしい。  
**「想像力を持て」**

これから長い人生を生きていくために、どうしても身に付けてほしい能力だ。相手の気持ちを重んじるための力だ。相手が何を考えているのかを想像できる人間になれ。ゲームで鍛えた反射の力ではだめだ。しっかり考えて人の気持ちをくみ取れる人になりなさい。

今しようとしている行為の結果を想像しなさい。反射的に行動する者にはその行動の結果を考える余裕は無い。自分の行動に責任を持つと言うことは、結果の責任を取ると言うことだ。次の場面を想像しなさい。次の場面の登場人物の心情を深く考える想像力を持ちなさい。

最近のニュースを見ると悲しくなる。  
「人を傷つけてみたかった。」「かっとなってバットで殴った。」「あいつをいじっているとみんなが笑うから。」「みんなもやっていたから。」「俺だけで無いし…。」  
全ては想像力の欠如だ。想像力の欠如は人間性をもだめにしていく時代だ。あふれる情報に流されて考えることを放棄した人間がどんどん増えていく。君はその一人になってはいけない。想像力を持て。

### **「本を持て。本と向き合え」**

人は自分の人生しか経験することはできない。当たり前のことだ。自分は一人しかいないのだから。しかし、他人の人生を経験するような思考体験はできる。それが本なのだ。他人の考えていること、他人が勉強してくれたことを活字を通して経験することが読書なのだ。その経験が想像力を飛躍的に鍛えてくれる。本を持て。本と向き合え。

### **「人と関われ。わずらわしい人間関係に身を置け。」**

ゲームの世界では無い生身の人間関係に身を置きなさい。その中で生まれる喜び、嬉しさ、悲しみ、悔しさを味わいなさい。全ての感情を身をもって感じなさい。その経験が想像力を鍛えるのだ。

### **「想像力を持て」**

この校長の魂の叫びが、いつか君たちの心に届くことを祈る。

あえて言葉遣いを敬体ではなく常体を使用した。



苫小牧市立清水小学校長 一谷 浩之